

第2回 鳴門市まちづくりデザイン会議 議事録

日 時 : 令和7年6月13日 13時30分から15時40分

場 所 : 鳴門市役所 2階 大会議室

参加委員: 内藤廣座長、永易委員、林委員、森下委員、河野委員、西谷委員、黒崎委員、
浜様、池田委員

事 務 局: まちづくり課 小川課長、碓主幹、林副課長、岩久保副課長、齋藤係長、大端係長、
八幡主事、戦略企画課 吉川課長、公園緑地課 清水課長

発言者	主な発言内容
事務局	只今より、第2回 鳴門市まちづくりデザイン会議 を開会いたします。 開会にあたり、座長より、ご挨拶をお願いします。
内藤座長	前は、皆さんのご意見を伺うことが中心でしたが、次第にまとめる方向 に向けていかなければいけない。今回はまだいいんですけど。自由討論だけ ではなくて、ちゃんとした成果を上げたいと思います。今日はそこまではい かないと思いますけどもそういうつもりで皆さん、意見をよろしくお願いします。
事務局	安宅委員が所要により欠席との連絡があり、代理で鳴門商工会議所 経営指導 員 浜様が代理で出席いただいております。皆様、よろしくお願いします。 会議設置要綱 第6条第2項の規定により、会議については、座長が進行する 運営するとされております。これより、内藤座長に会議の進行をお願いします。
内藤座長	それでは、取り組み状況、前回の振り返り、宿題とかを事務局の方から報告 してもらいたいと思いますので、よろしくお願いします。
事務局	(事務局より、前回会議の内容確認、ロードマップ、本日の流れの説明を行う。)
内藤座長	ヒアリングについて、どのような印象を受けました。
事務局	調査結果は、後ほど詳細に説明をさせていただきますが、皆さんにまちにど んなものが欲しいか聞くと、色んなご意見をアンケートの中で回答いただき まして、まちに対する夢というのはあるのだなど実感として感じたところです。
内藤座長	皆さん、無関心ではない。
事務局	無関心ではなく、マルシェのアンケートでも、書くことがないということは なく、書いていただいた内容は、いい感じではないかと実感しています。
内藤座長	資料の説明を続けていただきましょうか。
事務局	(事務局より、議事1 中心市街地の現状の報告を行う。)
内藤座長	議論する内容はわからないですけど、意見のある方はお願いします。
河野委員	中心地で商売をさせていただいているものとして、キョーエイさんの件は大 変残念に感じております。あくまでも個人の方の持ち物なので、これに関して 何かをここで言うのはどうかと。広い意味でこの辺の再開発が本当に始まっ ていこうとしていますので、その中で重要な1つの土地にはなると思っ てんですけども。今のところ、個人の所有物で、ここにセンター街さん もいらっしやらない中でデザイン会議で話をするのはどうかというのが、 私の意見であります。

内藤座長	難しい問題だと思うんですね。時代的なこともあるし、色んな要素が重なっていて、どこかでは解決していかなければいけないけど、でも、これ民業ですから基本的には、我々には関与できない範囲のことだと思います。基本的には、経営のこともあるので、それはちょっとわからない。あれこれいうべきではないような気がします。 私がまちづくりを20年している日向市も、まちづくりを始めて、しばらくして、同じようなことが起こったんですよね。駅のすぐそばの大きい商業施設が撤退しました。 基本的にはそれとは分けて、それよりかは、もうちょっとまち全体、中心市街地全体をどうするかということを生懸命やろうということで頑張りました。すると、まちが建て直ってきたら、不思議なことに、そういうものも建て直ったりする。むしろ、我々は、鳴門市の中心市街地の基礎体力をどうするか、そういうところに話しを向けた方がいいかなという気が僕はしています。
池田委員	色々なご意見があって、自分も、閉店報道が出て20人、30人、市役所の方だけではなく、商売されている方、市議会の先生、いろんな話を聞かせていただきました。皆さん、まちのことを思っているからこそ、色んな意見がある。 ただ、市が事業者の方に意向を聞かせていただくと。事業者の方は「今後、活用方法を検討していきたい」と仰られている訳です。中長期的にみると、大事なポイントになる場所であることは間違いないと思いますが、市としては、現状、状況を注視をさせていただきながら、先生の先ほどのご意見に沿うような議論していかなければならないと感じています。
内藤座長	見ていかなきゃいけないことは確かですけどね。注意深く。だけど、せっかくまちの中にいい風を吹かそうという感じで今、デザイン会議もやっていると思うんだけど、ちょっと障がいが出たなど。でもそれに負けないように、まち中のイメージをみんなで作っていかなければならないと思います。
河野委員	確かに近隣の方で買い物をメインに、自転車で通われていた方が確かにいらっしやった。何かしばらくの間だけでも買い物に来ていた方が便利になるような、野菜の移動販売のようなものがあれば、市民の方も、まちづくりであの辺が変わっていくのを、気持ちも一緒になってくると思うんです。 多分、近隣に不便な方がいらっしやると思います。野菜とか日用品だけでも買えるものが、臨時でもあればいいなと、市民感情としては思います。
内藤座長	後で議論が戻るかもしれませんが、議論を進めましょうか。
事務局	(事務局より、児童クラブアンケート報告、高校生アンケート報告、夕暮れマルシェアンケート報告を行う。)
内藤座長	アンケート結果だけど、なかなか良くできてるし、ちゃんと調べていただいたと思います。ただ、ややまだ杓子定規なので、むしろアンケート調査をやった、もうちょっとあなたの意見を聞きたい。とりあえず、役人の立場を離れていいから、印象なりをもっと聞かせて欲しい。 あと、中学生が入っていない。それは、いいのですか。

事務局	中学生については、今回、間に合いませんでした。今後、対象にしていきたいと考えております。
内藤座長	中学生は大きいと思っているんですよ。予備軍としては。高校生は受験とかで、目標があってわりと均質化していて、中学生ぐらいだったらこれからどうしようかっていう子たちなので、できたら中学生の話も聞いてもらって、ここで披露してもらおうといいかなと思います。次回、お願いします。
事務局	高校生アンケートでは、用事がない、魅力がないっていう回答が圧倒的に鳴門駅周辺で多くて、自分も高校生の時を思い返した時に、寄る理由が全然ないと思っていたし、自由意見やその他の雰囲気を知っている中でも、友達と気軽に遊べる場所を彼らは求めていると、今回数値化してみて改めてよくわかった。 私は、10年前ぐらいなんですけど、自分も友達と軽く寄れるようなところがあれば、放課後は、そのまま自宅に帰らずに寄れたりできるのにな、と思っていた。多少世代が変わっても、彼らが思っているのは、気軽に誰かと触れるような空間が欲しいということなんだと思いました。
内藤座長	僕が高校生だった時は、そこに行く綺麗な女の子がいるから行こうかな、そんなものだったんですけど、そんなことなかった。
事務局	綺麗な女の子がいれば行くと思います。
内藤座長	若い子というのは、異性に対する関心というのが、心の中の半分以上じゃないかな。でも、それは悪いことじゃなくて、当然のことなんだけど、アンケート調査はそういう風に出ないから。ご自分の体験の10年前をちょっと言われたけど、思い当たるところあるでしょう、そういうことです。
事務局	そうですね。他校の子たちが集まっているところには、行きたくなります。
内藤座長	人と人の交流だよ。他に意見ありませんか。
森下委員	このアンケート結果すごい面白くて、特に鳴門の高校生のアンケートが、ちょっと衝撃的で、市外から鳴門に通っていらっしゃる方の方が多いところ。そして、定期券を持って鳴門に通っているとしたら、定期券を持っているのに、週末に鳴門で過ごさないというのがポイントだと思いました。 私は、鳴門から徳島市内の学校に通っていて、定期券を持っていたから、週末も、徳島市に無料で行けました。何をやるわけではないですが、やっぱり友達と会いたいし、何かを買う訳でもないけれども、週末徳島市内に行って、タダで楽しめるようなところを回って最後は何か食べて、鳴門に帰るっていうようなことをしていたなと思う。逆に、今は鳴門に立ち寄るところがないから、用事がないから、どこにも行かないという結果が出ているのではないかと思います。ということは立ち寄る場所があって、鳴門の高校に通っているんだったら、鳴門に集まるのが一番だよってなるんじゃないかなとも考えます。そうすると、週末に定期券を持っている人達が、公共の交通機関を使って、鳴門に集まるということが、実現可能なんじゃないかなと思っていて、すごい期待も持ってこのアンケート結果を拝見しました。
永易委員	JRの永易です。高松駅前、アリーナに合わせて4車線の道路を2車線にし

	て、歩道を作って歩けるような形にしたり、所々に、座れるようなベンチを作っています。 この4月から高松駅近くに文理大学が開校して、お昼に学生さんが弁当をスーパーで買って、そのベンチや、大学の前で、段差があるところで、皆さん座って集まって食べたりしています。大きなスーパーのような目的地もありますが、単に座ることができるだけでも、皆さん集まるのかなと思っています。う考えると大きなものじゃなくても、何か仕掛けづくりはできるかなと最近思っている次第です。
内藤座長	高松の駅周辺は良くなっていますね。鳴門もよろしくお願いします。 多分、永易さんが言われたとおり、まちがそういう人を何か受け入れるというメッセージなり気配があると、そういうことも出てくるよね。鳴門の中心市街地は、今のところちょっとそういう風にはなっていない。足湯が有りますけども、若い人が集まる感じ、メッセージが無いかなって気がします。 他に意見はありませんか。せつかくのアンケート。黒崎さんどうですか。
黒崎委員	私も1週間程前、高松の駅前に行きまして、アリーナや駅ビルが非常に賑わっていて、その時ちょうど食のイベントみたいなのをアリーナでやってたんですけど、賑わっていました。このアンケートを見たら、イベントをするスペースが欲しいとか、スタバ、おしゃれなカフェが欲しいとか、そんな意見が多かったように思います。イベントをするには広いスペースがいるが、そういったものが鳴門駅周辺にはない。その辺をちょっと、検討していかなければならない。 それと、後から出てくると思いますが、駅前の近くに撫養川が流れていて、整備がだいぶ必要だと思いますが、川を検討することも必要になると思います。
内藤座長	川が近くにあるのであれば、川を結び付けていくのは、大きい視点としてはあるよね。あれだけ河川整備がされていて、利用率がそれほど高くなさそう。
黒崎委員	普段、通行量もほとんど無いと思うので、ちょっともったいないかな。非常に伝統と歴史がある撫養港とか撫養川の辺りなので、歴史的なこともPRしていければと感じます。
内藤座長	先々週、道頓堀に行ったんです。あそこは遊覧船をすごい勢いで今やっていて、凄く繁盛している。インバウンドに向けて。前はあんなものなかった。道頓堀は一時もう川が汚れてあんまり人も寄らなくて、一生懸命整備をした。すると良くなってくると、ああいうことも起きるんだなと思いましたね。あの賑わいにはびっくりしました。川をどうやって使ってもらおうかという話をどこかで組み込んだらいいかな。 ただ、ここに関しては、市が手を出せるところと出せないところがあります。県も一緒になって、それはまた今後、このデザイン会議の枠組みの外だけど、デザイン会議としてはこうして欲しいなということを投げかけて、県と市が一緒になってやるというのがいいのかと思います。西谷さんいかがですか。
西谷委員	ちっちゃい子も、高校生も痛いところをついてるなっていうような意見が多かったなと思います。ドラッグストアはもういらないとか。

	コンビニさんなんかは、うちの方にも、土地を探してくる段階で、やっぱりその車の流れとか、非常によく見て出店していくので、今思うと駅前にコンビニがないっていうのは、やっぱり交通量の流れが悪いからできてない。 駅前には自動販売機しかないんで、そういうところからでもちょっとずつ改善していったら高校生も少し時間を潰せる、高校生は今、コンビニで時間を潰すという我々みたに感覚がなくて高校生はそういうところを求めているのかな。
内藤座長	コンビニっていいところも悪いところもあって、僕も良く使いますが、街なかの商業を奪っている時がある。コンビニが無い大昔は、駄菓子屋さんがあったり、かまぼこ屋さんがあったり、果物屋さんがあったりした。コンビニも結構苦労して、ああいう業態を作りあげたんだけど、それはそれで理由があって、凄く彼らも一生懸命努力して、勉強して、ああいう風になっているので、今度は我々が勉強する番かなと思います。 2～3年前かな、某大手のコンビニから、コンビニが飽和状態になって、それを次世代に変えるにはどうしたらいいか相談を受けてたんですよ。その時に社長が言っていたのは、地域とともにあるコンビニの姿とは何かということで、売り場面積を減らす、売り場面積を3分の1か半分ぐらいにして、その残りのスペースをコミュニティースペースにするという案を語ったんです。そういう時代が来つつあるのかもしれないね。地域と一緒にあって、どう作っていくか。そこにデリバリーとか、集配システムを入れてお年寄りとかに、宅配で配るとか、そういう提案があったんですよ。そういう風になんか変わってくるかもしれない。ただ、今何も無いので、呼び水的に何か試験的にやってみませんかとか声をかけるとか、そういうことはあるかもしれません。林さんどうでしょうか。
林委員	鳴門市以外でも、同じ内容が結構出てきそうというのが正直な感想で、何が大事なのか、すべきことを精査していく必要があると感じました。週末に高校生と中学生が、ゆめタウンとかイオンに行くっていうのは、別に鳴門の子ども以外でも、吉野川市とか阿南市とか、みんな人が集まるところに行きます。徳島駅では2階でプリクラが撮れますよね。そこに高校生と中学生が集まる。それが終わったら、今度そこからバスに乗ってイオンに行くとか、ゆめタウン行くっていう流れは、鳴門市の学生に限ったことではない。実際、徳島市で運行する便も学生さんで溢れてたりするので、やっぱり、鳴門市に住んでいる方が土日に鳴門駅に来ることになれば、他の街の人は勝手に来ることになる。 鳴門の大きいコンテンツとして、以前、花火のときは、多くの方が乗ってくれていました。花火みたいな規模は難しいと思うんですけども、鳴門ならではの、何かをしていくっていうのが大事かなと思います。簡単ではないんですけど、鳴門市は観光というコンテンツも非常に大切にしている部分があると思うので、そうした方が集まれる待機できる場所を整理していければいいと思います。
内藤座長	花火のときは、みんな帰りにまち中で飯食って帰るのかな。
林委員	行きは撫養川付近にバス停が近いのでバスで行って、帰りは鳴門駅まで歩かれて、汽車に乗って帰っています。

内藤座長	今のストーリーからすると、余り地元にお金が落ちている感じがしないね。
林委員	そこなんですよね。花火が始まる前から人に来てもらうとか。例えば、ヴォルティスの試合であれば、試合の前から色んなイベントをして、来ていただいて、試合が終わった後にはけていく、そのまま残って飲食店に行ってもらうのは、難しいけど、時間体をちょっとずらすことで、うまく集客できないかな。
内藤座長	何かお金の落とし方を考えないとね。 ドジャースの開幕戦に行ったんですよ。そしたらやっぱり店舗が凄いよね。皆さんそれで儲けているんだよね。チケット半分、商業半分で、ちゃんとお金を落としてもらうような、仕組みがある訳だよね。先ほどイベントの話が出たけど、イベントをやったらそこで飯食ったり、うろうろしてお金を落としたりの仕組みを作っておかなければ、儲かれば、またみんなでやろうとする。
浜 様	高校生のアンケートで、1400 人のうち 736 人が回答しているということは、これだけまちづくりに興味がある証ということだと思いました。結果的に用事がないとか、魅力を感じないという回答がすごい割合ですけど、結局、魅力のあるところ、小さな仕掛けでもいいので、小さなちょっとした場所、何かを作れば、来るんではないのかなと、ポテンシャルが、鳴門にはあると感じました。
内藤座長	勉強する場所はどうかな。小さなちょっとした場所という話がでただけけど、私が設計した周南市の図書館は、ほぼほぼ、席が埋まって、高校生が勉強をしているんだよね。宿題をしたりとか、そういう場所なんだけど。駅周辺にはそういう場所がないので。放課後に勉強する場所。アンケートになかったかな。
事務局	説明しきれなかった部分なんですけど、自由意見とかの中で、友達と一緒に勉強したいとか、車を待つ時間に勉強するスペースが欲しいとかっていう意見は、一定数ありました。ニーズはある程度あると思ってます。
内藤座長	あまりはつきりと出てきていないだけだね。
事務局	皆さん勉強するだけじゃなくて、騒ぎながらおしゃべりしながら勉強をする、勉強をネタにした形でお喋りしたいというニーズが、ちょっと見えてきてる感じがします。私たちも色んな街を視察した時に、例えば、ただ机があって、3人4人が座れるスペースを駅の前に設置するだけでも人が集まっているというところをよく見かけます。そういう仕掛けが1つキーになるところではないのかなというのは、事務局の方でも、今考えているところです。
内藤座長	中高校、結構、今の教育制度って、しんどいじゃない。勉強しなければ生き延びれないという感じで。家に帰ってするのかもわからないけど、友達とわいわいやりながらできるところがあれば、そこに来るよね。自販機か何か、ちょっと飲むものがあったり、食べるものがあったり、街なかを使ってくるような気がするんだよね。本当は図書館が、そういう役割を果たすんだだけだね。
事務局	ただ、図書館だと、どうしても静かにしなくてはならなくて、お喋りできない。高校生のニーズとはちょっと違っているとの感触を受けています。
内藤座長	静かにやりたい人もいれば、わいわいやりながらやりたい人もいる。
事務局	そうですね、私もそうでしたけど、みんなでわいわい言いながら勉強するの

	が、今思えば楽しかったなと思います。
内藤座長	そういう場所を作りたいですね。
西谷委員	アンケートに一番多く出てるのが、スタバなんですよ。多分オープンカフェ的なものがもうスタバになってしまってるんですよ。だからコメダ珈琲とか、ああいう風に入るんじゃないくて、ちょっと気軽に入れるカフェが少ないのかな。
内藤座長	コメダは、割と囲い込まれている感じがして。
西谷委員	高校生が入るには敷居が高い。スタバなり、ドトール、タリーズなどのカフェが鳴門にはないが、その辺をやっぱ高校生は欲しがっていて、アンケートを見て、それがスタバってキーワードになっている気がしました。
内藤座長	ファミレスに寄ってる感じがあるよね。
西谷委員	コメダはファミレスより、ちょっとコーヒー1杯の値段が高いような気がします。スタバも高くなっていますけど。
内藤座長	その辺、ちょっと気楽に入れるかどうかっていうのは大事なポイントだよね。スタバ、今更かという気がするけど、何かないのかな。徳島は、アアルトコーヒーとか、とても美味しいのがあるよね。そういうのはどうだろう。
西谷委員	多分、喫茶店は多いと思います。ただ、高校生が入るには、私達のときは、純喫茶とか入って、ゲームセンターのゲームがあったりして、色々していたような気がします。そんな記憶があります。喫茶店は多いですよ、河野さん。
河野委員	喫茶店は多かったですね。
西谷委員	それとも減ってきたんですかね。
河野委員	コメダとか大手になってきている気がします。個人が経営しているのは減ってきているような気がしますけど。鳴門もいっぱいありましたね。
西谷委員	頑張ってるやっっているところはありますね。
河野委員	人気あるところは、頑張っていますね。
内藤座長	今、西谷さんが言われているのは、高校生がちょっと寄れるような雰囲気の喫茶店が無いといことを仰りたいんですよ。 僕、今、猿田彦珈琲に関わっていて、コーヒーの事情には割と詳しくなっているんだけど、今、コーヒー豆の値段が上がって大変らしいです。コーヒー業界も、今までだったら、スタバとかあったけど、次の段階に多分動いてくる。そうなのが街なかで出てくるんじゃない。面白いと思うね。
河野委員	猿田彦珈琲の役員に、私の同級生がおりまして、鳴門駅前で1号店を計画していただけたら面白いと思いますね。 アンケートの件で、鳴門にあんまり行きたいところがないとか、結構はつきり、声が出てるなあと思いました。5月末のキョーエイ閉店、大変な問題ですけども、それ以前に、キョーエイがある時から結局、高校生たちは、何十年こう思ってたんだろうっていうのを、顕著に思ってしまったりする訳です。 30年ぐらい前、僕たちが高校生のときは、毎日溜まる所があってキョーエイも、汽車公園もあって、他の学校の好きな子がおるから、そこに行くのが楽しみだったんですよ。きっとみんな僕らの年代とか上の方もそうだと思うんです。

	商店街で、学生を招いてまちづくり的な勉強会をしたんですが、話を聞くと家に帰って1人勉強をするんじゃないらしいんです。友達たちと楽しく過ごせる場所でテスト勉強を教えあひするのが楽しいらしい。そういう場所があれば、例えばそれが駅前であれば、放課後みんなで勉強するし、きっと乗車率も上がるんじゃないかな。汽車で来て勉強する子もいるかもしれないし、そんなスペースがあったらいいなと、実はずっと思っていました。放課後、自由に勉強したり、話しながら時間を一緒に過ごせるスペースがあればいいなと思ってました。 商店街で100円商店街というイベントがあるんです。結構、来場者がいて、前回も子どもさんも沢山来ました。でも普段は本当に人がいないんです。日曜でも商店街は、何店も閉まってるし、でもイベントの時だけは凄く人が来る。定期的にイベントができる広場が欲しいとの意見もありましたけども、再開発した駅前に芝生広場があって、色んな人が自由にイベントしてるスペースがある。そんな場所があれば、鳴門にも高校あるし、イベントしたい大人たちもいるし、最近マルシェブームですので、一杯集まってくる。今そういう場所が求められてるのかなと思いながら、商店街でも、学生たちが実習できるようなスペース、何らか寝泊まりできるようなスペースを作ろうと思ってるところです。
内藤座長	今の話しは、学生が勉強したりするような場所の話と、イベントの話の二段重ねですね。イベントに関しては、高松みたいな大きな街だったらいいんだけど、それほど大きくない街でイベントというと、やっぱり、人、これが大事。 私がやった日向市の鈴木くんが、1年で70回以上イベントをするなんて異常だよ。殆どに彼が関わっている。場所は行政でいくらでもできるんだけど、人が結構大事かもしれない。大都市だったらわりと資本の力で出来るけれど、小さい街は難しいんだよね。本当なら、1人じゃなくて3人ぐらいないと疲れちゃう。日向市の話でもう一つ言うと、例えば鈴木くんだけじゃダメなので、メガネ店の金子さんとか、駅前ロータリーを閉鎖して、三輪車レースみたいなのを、大人が三輪車で競争するんだけど、それが大人気で、面白がって仕掛ける奴が街なかにおいて初めて場所が活きてくる。それがないと、きれいな場所だけ出来ておしまい。つまんないよね。そういうソフトウェア作りのほうが結構大事。場所を作ると同時に、裏方のソフトウェアを見つけていかなくてもならない印象があります。他にアンケートについて、何かないですか。
池田委員	アンケートは、厳しい結果で、少し大雑把に言うと、市外の子は、ゆめタウンや徳島駅前に、市内の子は家にいる、大多数の行かない子達は、駅周辺に用事がない、魅力を感じていない、そしてそのことを不便とも感じていない。 我々、それを悲しいとか、昔はねといった話をしているが、どのタイミングで変わったかという話をしていくと、中心市街地で食べれて遊べて、うだうだできて、このエリアの中で完結してたものが、その機能が消えていった時分と重なるように思う。アンケートで欲しいコンテンツが出てきてるので、ショッピングセンターと同じものではなく、鳴門にアレンジされたもの、うちにしかないものを、ここで楽しく仕掛ける。それが、ひとつの方法なんだと思います。

	市外・県外でこの調査をしたら同じ結果がでるのではとの意見がありました が、実は坂出が実施しています。結果は、ほぼ同じです。彼らはカジュアルで、おしゃれで、しゃべりも勉強もしながら長時間くつろげる場所を欲しがっています。そこは予約された部屋ではないし、誰かが自分たちの場所だと主張している場所でもなくて、いろんな人がシェアできるような場所を求めているんですよね。前回、森下委員が、自分の居場所が見つかる場所という言い方をされましたが、多分そうなんだと思います。鳴門の子だけが特に家が好きな訳ではなくて、恐らく、皆さんが原因を因数分解されたようなことが鳴門で20～30年かけて起こったということだと思うので、それを今度は逆方向で、もう一度、再構成して仕掛けていけばいいのではと思います。
内藤座長	大体そういうことなんだろうと思うんだけど、思っていることを言うと、郊外型のショッピングセンターが出てきて、中心市街地が負けてきました、この30～40年で。見方を変えれば、郊外型のショッピングセンターはすごく勉強して人を集める努力をして、今日に至っているけど、それもそろそろ疲れが見えてきている。その中で、学生も仕方なく行っているのかなって感じがする。行く場所がないから行くっていう。今度、我々が、ショッピングセンターのように勉強をしなければならない。あそこになんで学生が、半信半疑だけど通いつけているのか、何が若者を集めているのかを真剣に考える、それに対して、街なかの的確に答えるというのが答えじゃないかなという風に思います。 もう一つは、小さい店舗でもいいけど、日本一と言い過ぎだけど、日本一うまいコーヒーを飲ませる店があったら、みんな行きますよね。そういうのって、小さいけど物事の始まりとしては、いいかもしれない。それがさっき言ったように、若い子に開かれていて、ショッピングセンターに行くのがダサい、となってきた、なかなか刺激剤としては、そういうのがあっていいよなと思ったんですよ。別にコーヒーじゃなくてもいいんだけど、なんでもいいんですけど、そういうことってすごく大事なような気がする。そうすると、高校生がかっこいいよねとか、あそこに行って、あそこのあれうまいんだぜとか、そういう風になってくると街なかのうろろう出てくる呼び水になるかなと思います。言いたいことが有る人は、言ってください。事務局でもいいですよ。
事務局	高校生の暇な時間、持て余してるところが多分あると思うので、それを掴み取りたい。ハローズっていうスーパーがあるんですが、そこでパンを売ってる横に小さい待合スペースのようところがあって、そこに渦潮高校生の高校生が夕方に溜まっている。何かあるかって言ったって、特に何もない。そこで皆さん、買ったものを食べたり、飲んでる。そういったことができる空間が、やっぱり必要とされているのかなと思っていて、そういったものを駅の方に持っていけたらなど、私の中で、ちょっと考えている。
内藤座長	先々週ぐらいに驚くべき場所を見つけました。東京のど真ん中、銀座の近くだったと思うんだけど、無人店舗。煙草を吸いたいと思って、喫煙ルームがある喫茶店がないかなと思ったところどこもなくて、煙のマークが書いてある、

	その奥なんですけど、店員一人もいなくて、スマホ決裁。これからはあるよね。 オジサン用のスペースだったけど、考えようによっては、いくらでも展開の仕方があると思う。要は人件費。場所さえあればいいという考え方が、これからあるかもしれない。永易さん、その手の情報、何かありませんか。
永易委員	J Rの話になりますが、お土産にしても自動販売機で何でも売っているような状況になっています。観光地として人気のある愛媛の下灘駅は、当社では何もしていないのですが、道を挟んだところに、カフェを開いていただいていて、駅に来る方がそこを使われている。大きなものをつくる前に、たちまちは、色々と実験的にやってみるのは、一つあるかなと思いました。
内藤座長	世の中動いているので、スマホ決裁が出てくると、若い人は使いやすいかもしれない。行政がやる話じゃなく、事業者の世界で、そういうのがあるといいかもしれないですね。もちろん、それが全てではないけど、若い子のプライドになるような、日本一うまいみたいな、とにかく日本一である必要があるような、そういうアイスピックのような話と、無人店舗みたいなものの可能性と、両方が見えてくると、少し新しい中心市街地の在り方が見えてくるような気がする。 若い子を街なかに引っ張り出すというのをテーマにするというはあるかもしれない。若い子が出てくれば、僕は高齢者の人も出てくるようになると思います。若い人に会いたいから。まちが明るくなってくるね。若い人が多いと。 僕も大学にまた勤めるようになるとつくづく思うのは、大学のキャンパスは明るいですね、空気が。若い人がいるから華やか。まちづくりの非常に大きな話の一つとして、若い子がまち中で過ごせる場所を増やしていこうというのは、大きい看板でやってもいいかもしれないね。そのための方法としていくつかあるよね。まちの作り方を変えていく。いろいろやると、目標が散っちゃうので、一つの大きな目標としたらアンケート調査でやったみたいな、ここが抜けている中学校とか、高校ぐらいの子がここに来るにはどうしたらいいのか、ここを歩いてもらうにはどうしたらいいのか、デザイン会議の大きい目標の一つにするというのは、このアンケート調査を見て特に思いました。それは、委員の先生方に反対する人はいないんじゃないかな。どうですか。森下さん。
森下委員	アンケートを若い人たちに取るということ自体、凄く開けてきたなと思います。私たちの世代は、上の世代が作ってくれた居場所や遊べる場所を持っていた世代ですけど、今の若い人は、それすら知らない。存在が無いから、期待すらしていない、絶望的な内容だったと思います。これはちょっと恥ずかしいと思っていて、自分たちは良かったのに、「前はこうだった」という一番嫌な先輩のタイプに私もなってきたなとも感じました。つまり全然下の世代の人たちのことを考えないで自分たちのことで必死でした。でも今は、私たちは良い時代を知っていて、面白かったと知っているからこそ、次の世代に与えていくという役割に回らないといけないと思います。何かを授けていくことができれば、特にアンケート受けた子供たちは、自分たちの意見は通るんだという自信に繋がると思うんですよ。だから、勉強がしたい、集まって話がしたい、そういう

	意見を出した人が大半いるなら、それが実現できたら、やっぱり自分たちの意見は通るんだと、絶対思ってくれるだろうし、鳴門は若い人の意見を聞いてくれるまちだという認識が広がって、鳴門が好きですという人が増えるんじゃないかなと思います。
内藤座長	そういうメッセージがでてくると、流れが変わってくるからね。その流れを作るのが一番大きな役割だと思います。 大学の学長やって、つくづく思うのは、この半年ぐらいなんだけど、とにかく最近の若い人はダメなんだと、ゆとり教育でなんとなく気が抜けたみたいな若い人かなと最初の頃は思っていたんだけど、僕はこのところ考えが変わってきた。今の若い人いいですよ。ただ、その見せ方が下手というか、伝え方も下手なんで、表には出て来ないけど、僕は今の若い世代は、なかなかいい人。すごくナイーブで、他人に対する感受性も非常にあって、僕らは期待してもいいんじゃないかなという気持ちに、実際に若い人と話したりして、ちょっと変わったんですね。やっぱり我々まちづくりする上で、そういうつもりになった方がいいような気がする。若い人いいなと心から思うと、彼らのために作るような感じになってくるので、みんなで若者の見方を少しずつ変えていきませんか。 それから、これは違う側面から情報提供なんですけど、私の勤めている大学がある世田谷区長が今やりたいことというのが、不登校の学生のクラスを作ることで、全国からもの凄い応募があって、小学校、中学校の3分の1ぐらいを不登校生の教室に充てる、その多さにびっくりしている。 鳴門も結構同じで、ハンディを負った人、そういう若者もいるんだよね。理想を言えば、そういう人たちも街なかに出てきて、街なかで混ざり合うというか、コミュニケーションを取り合う、そういう街になったらすごくいいなと僕は思うんです。ある種、そういう人たちが、こう交わって、食事をしたり、買い物をしたりする場所がつくれたら、それは素晴らしいよね。美術大学に通ってくる子は不登校直前の子がたくさんいるですよ。つまり、普通のいわゆる教育の成績をとるのとは違うメンタリティーを持った子だからね。そうすると彼らと話をすると、とってもいいですね、つまり純粋なんだね。世の中の中の矛盾に対して、本当に生身でどう対応するのかを悩んでいる。そういう子たちが、たくさんいて、彼らの話を聞くと面白い。だから、若者には、希望があると思っていて、そういうことが、みんなで言えるまちを作りたいな、そうすると、10年後にはその人たちは、大人になっている訳だから、それがまちの主役になっていく訳なので、未来への投資としては、これ以上のものはないでしょう。
事務局	(都市構造変遷、都市機能分布、公共施設整備状況、交通量調査等を説明)
内藤座長	交通量調査の数字はだいたいわかりましたが、わかりやすい言葉で言うと、南北の交通量が多い、東西が弱い、こういう印象で良いですか。
事務局	はい。車だけではなく歩行者についてもそういった感じが見受けられました。特に大道銀天街、平日の水曜日で、人がある程度通っているのかと思いましたが、昼間の時間帯、殆ど人が通っていない状況で、課題だと考えています。

内藤座長	確かに地方都市に行けば昼間誰もあるいていない、でも逆に言うと、昼間歩いている人というのはどういう人だろう。
事務局	私が見てたんですが、お店に来られる方が半分ぐらい、後は通過しているおじいちゃん、おばちゃんが結構多かったなという印象です。
内藤座長	多分、昼間歩いている人の目的って限られているよね。だから、交通量調査とかやっても、実態が見えづらい。昼間、まちに人がいないのは、仕事をしているんだから当然だよ、という話になるので、これは我々が見るしかないんだよね、どんな人が歩いているんだろう、というのが逆に大事になってくる。 何が言いたいかというと、車に関してはわかるんだよね。でも人に関しては、質を見ないといけない。量だけでなく、数を増やすというのではなく、どんな人が何をしに歩いているのかを見ないと、本当のどこを見ていないことになる。
事務局	確かにですね、大道銀天街を調査中に、朝夕の通勤通学の時間をいれても、中高校生があまり通っていないという印象を受けています。
内藤座長	昔は、夫婦が結婚して、旦那さんは職場に行って、奥さんは専業主婦という一つのプロットタイプがあった訳ですよ。すると奥さんは、お買い物に行くと言って昼間歩く。その構図が今は無くなってる訳だよね。すると誰も歩かないという話があるわけだね。まちづくりをやって人を戻そうとしているんだけど、街なかに、無理やり真昼間に人を歩かせるというのも変な話だよね。これはアンケートに似合わないかもしれない、担当者の人が写真かなんかを撮って、その人はどういう人ですって説明してくれたほうが、理解が深まる話であると聞いていたんです。量よりも歩行者に対する質の方が議論の対象になるべき。
事務局	わかりました。検討させていただきます。(中心市街地の都市軸案を説明)
内藤座長	要するにこの図をどうするかが、メインテーマの一つになりますね。
事務局	(リノベーションまちづくり推進事業の説明)
内藤座長	(講演会講師の) 西村君って私が所属していた研究室のOBなんですよ。知ってました。
事務局	知ってました。ご支援いただいている団体の方から、鳴門の現状を話した時に、人口減少、非常に課題があるので、1回目はこの方が、適切でないかと。
内藤座長	すごい元気のある男。もうそろそろいい年になったけど、まだ元気。皆さん意見を聞いたら面白いと思うんですよ。佐賀県出身で、国交省のリノベの委員会の委員になったりして、リノベに関しては、情報が多いと思う。佐賀では、お風呂屋さんの改築をやって、賞ももらった。そういう実績もある人です。
事務局	(公民連携エリアリノベーション事業の説明)
内藤座長	浮き桟橋の修繕は、説明した方がいいんじゃないかな。
事務局	(資料 24 頁) 資料の左下に記載した浮き桟橋、これは、徳島県で設置されたもので、現在老朽化により使用ができない状況、立入禁止エリアになっています。 撫養川沿いを活用した、今後、イメージアップとか、エリア価値を高めるためには、この施設は非常に重要な要素と考えており、現在、県と、今後どのようにしていくか、意見交換をしております。今後、撫養川沿いを活用していく

	となれば、ここも非常に重要なエリアになってくると認識しています。
事務局	(都市構造の課題について説明)
内藤座長	次回、都市構造の進化に向けた議論になりますが、まとまりついてきますか。こういう考え方があるとか、必要な軸とか、全体のデザインをどうするとか、落とし込めるかどうかですね。
事務局	次回、そういった形のもの提出できるよう、検討させていただきます。
内藤座長	そういう風にしていかないと、言いたいことだけ言って、終わってしまう。少しずつ目鼻立ちをつけていかないと、ふわっとした形になってしまう。完成形でなくともいいので、持っていく方向をはっきりさせていった方が良い。
事務局	わかりました。そういったところで検討させていただきます。
内藤座長	会議の意見を踏まえ、少し目鼻立ちをつけていく。よろしくお願いします。
事務局	(まちづくりの活用制度、先進事例について説明)
内藤座長	インフラ整備にかかわるものは、時間がかかるので、さっきの河川も調整事項が多くて、そうこうしているうちに、まちが動いちゃうよね。だから、長期的に取り組んでいくものと中期的に取り組んでいくものと、短期的に取り組んでいくもののメニュー分けを少しやっておいたほうがいいと思います。 川が変わったりとか、道路が変わったりすると、本気で変わります。そこは時間がかかるので、繋ぎがいるんだよね。補助制度も使いながら、多少意識的にメニューを分けて取り組むのがいいと思います。まちはどんどん変わっていきますからね。まずは、すぐにでもできそうな話とか、手をつけられそうな話から。でもそれだけじゃだめで、中期的な話、長期的な話、特に河川に関しては、時間がかかると思うので、変わったらいいいと思いますね。川が変わるとまちがかわりますから。やったほうがいいと思いますよ。デジタル田園都市構想交付金というのはどういうことなんだろう。アバウトでいいですよ。
事務局	都市でなくても田舎でありましてDXを使いまして、まちの構造というのを開発して変えていく、そうしたところに全般的に使えるような事業です。
内藤座長	大学の問題の一つとして、デジタルネットワークをどうするかという話になっちゃうんですよ。例えば、最先端のデジタルアートをやっている子がいる。そうすると、回線をつなぐんだけど、遅い。多分これから若い子を中心市街地に引っ張ってくるんだったら、パソコン回線が早い方がいいので、デジタル系も視野に入れといたほうがいいと思います。若い子はデジタル世代だから、通信環境は、駅を中心とした中心市街地で、ちゃんとしておいた方がいい。
事務局	検討項目として入れさせていただきます。
内藤座長	補助があれば、補助を使って、仕掛けていくことが必要かな。時間も過ぎました。ご意見があれば伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。河野さん。
河野委員	今回は、8月9日、3回目も楽しみにしております。色々こんなものがまちにあったらいいなとうのを一市民として希望を持って挑みたいと思います。
内藤座長	他にいかがですか。よろしいですか。では、進行を事務局にお返しします。
事務局	委員の皆様には、終始、活発なご議論を頂戴し、ありがとうございました。

	これをもちまして、第2回 鳴門市まちづくりデザイン会議を閉会いたします。本日は、ありがとうございました。
--	--